



2-6

昭和6 一二六五三 暗 奉天 十九日前發
本省 九月十九日前着 林總領事 亞

幣原外務大臣

第六一八號

十八日午後十一時十五分交渉署日本科長ヨリ森總領事電ニテ日
本兵小北大營ヲ包圍シツアリトノ報告アリ依テ森總領事ハ本件衝突ヲ
出來ル丈小ナラシムル爲相互ニ努力力不ハ様話合ヒタルカ支那側ハ無
抵抗主義ニ出ツル旨語ル申ナリ
支、北平、南京へ轉電セリ

外務省

0009

0 285

2-7

昭和6 一二六五五 暗 奉天 十九日前發
本省 九月十九日前着 亞

幣原外務大臣

第六一九號 (至急)

往電第六一六號ニ關シ

森島ヲ特務機關ニ派遣シタルニ板垣參謀ハ次ノ如ク説明セリ
十八日午後十時半北大營ノ將校ノ指揮セル支那軍三四百名北大營
西南方鐵道線路ヲ爆破シ柳條溝方面ニ前進中ナルヲ虎石臺分遣所ノ
我カ巡察兵發見交戦トナリタル爲虎石臺ノ中隊ハ同北大營ノ敵兵五
六百名ト交戦ノ上北大營ノ西北隅ヲ占領シ交戦中ナルカ支那側兵力
ハ漸次増加シツツアリ尙當地守備隊全員ヲ前線ニ増派シ駐屯聯隊ハ
目下出動準備中ナリ (十一時半)
支、南京、北平へ轉電セリ

外務省

0010

0 286

正

ハコシテ送付

2-9

昭和6 一二六七四 暗 奉天 十九日前發 亞
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六二三號

往電第六一八號ニ關シ

十九日午前答申交渉署日本側長ヨリ莫ニ電話ニテ由下日本軍ノ北大
 營ヲ包圍セル日本軍ハ更ニ北門外モ其ノ占領下ニ在リ越布ノ對シテ中國
 側ニ於テハ全然無抵抗主義ヲ執リツツアリ右日本軍側ハ行動ノ如何
 ナル理由ニ依ルカハ別ニ御尋ネスヘキモ内外人雜居ノ地キシテ影響
 スル所重大ナルヲ以テ他方ノ軍ヲ依テ支那側ニ對シテハ事件ノ發生ハ支那
 ラレタキ旨申越セテアリ依テ支那側ニ對シテハ事件ノ發生ハ支那
 軍ノ滿洲鐵道破壞ニ基因スルニ依リ(支那)支那側ニ在ルコトヲ告ケ
 外國人ノ生命財產保護ノ點ニ付テハ我軍側ニ於テモ充分留意シ居ル
 事ヲ件(支那)支那側ノ鐵道破壞ニ基因シテ發生セルモノニ依リ(支那)支那側ニ在
 爾進ノ置キタリ
 スルレヨリ送付セリ

外務省

0 288

0012

正

2-8

六一九

昭和6 一二六五六 暗 奉天 十九日前發 亞
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六二〇號 (至急)

往電第六一九號ニ關シ

本官ハ本件ヲ出來得ル寸小ナラシムル方針ヲ以テ我軍及支那側ト聯
 絡ヲ執リ(支那)支那側ノ軍力ヲ抑止シテ支那側ニ在ルコトヲ告ケ
 支、北平、南京へ轉電セリ

本件拡大ヲ極力防止スル方針ノ下ニ本官ハ(支那)支那側ノ軍力ヲ抑止シテ我軍及
 支那側ト聯絡ヲ執リテ支那側ニ在ルコトヲ告ケ

外務省

0 287

0011



正

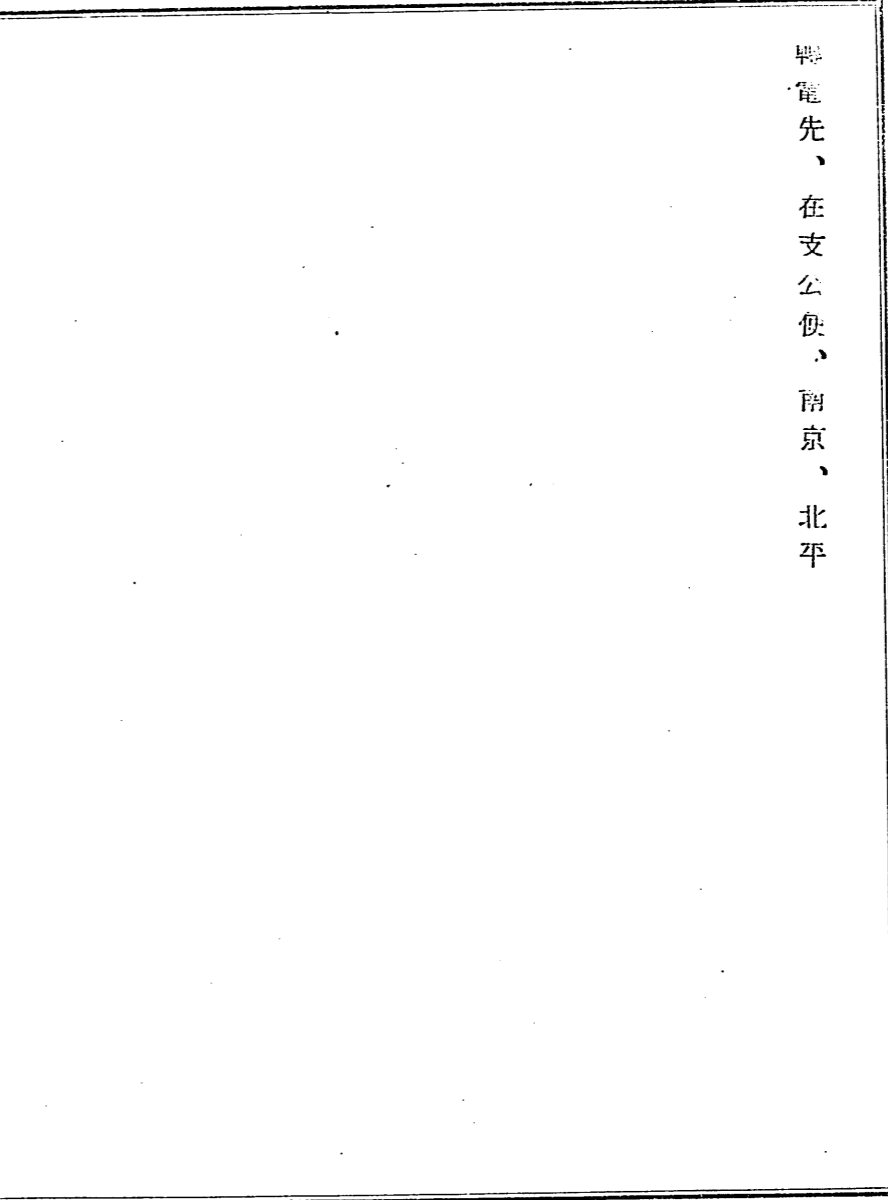
ハラフ
ミス

2-10

正

電先、在支公使、南京、北平

外務省



0.3

0 289

0013

昭和六 一 二六七ニ

暗奉天

本省 九月十九日前著

並

幣原外務大臣

林總領事

第六二四號

往電第六二三號ニ關シ

中國側ヨリ數回事件圓滿處理方申出ノ次第モアリ本官ヨリ坂垣參謀
ニ電話ヲ以テ日支兩國ハ未タ正式ニ交戰状態ニ入りタル議ニアラサ
ルノミナラス支那側ハ全然無抵抗主義ニ出ツル旨聲明シ居ルヲ以テ
此際不必要ニ事件ヲ擴大セサル様努力スル事肝要ニシテ外交機關ヲ
通シ事件ヲ處理スル様セラレタシト電話シタルカ同參謀ハ國家及軍
ノ威信ニ關スルヲ以テ外國居留民ノ保護ニハ努ムヘキモ中國軍が我
軍ヲ攻撃セルヲ以テ徹底的ニヤルヘシトノ軍ノ方針ナリト答ヘ容易
ニ肯ズルノ風見カサリシニ付本官ヨリ更ニ前記ノ趣旨ヲ繰返シ其注
意ヲ喚起シ置キタリ

轉電先冒頭往電ノ通り

外務省

0.3

0 290

0014

REEL No. A-0066

アジア歴史資料センター

正

2-12

昭和6 一二六六三 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六三〇號(至急極秘)

參謀本部建川部長ハ十八日午後一時ノ列車ニテ當地ニ入込ミタリト
 ノ報アリ軍側ニテハ秘密ニ附シ居ルモ右ハ或ハ眞實ナルヤニ思ハレ
 又滿鐵木村理事ノ内報ニ依レハ支那側ニ破壞セラレタリト傳ヘラル
 ル鐵道箇所修理ノ爲滿鐵ヨリ保線工夫ヲ派遣セルモ軍ハ現場ニ近寄
 セシメサル趣ニテ今次ノ事件ハ全ク軍部ノ計畫的行動ニ出テタルモ
 ノト想像セララル

外務省

0 291-1

0015

正

パラフレイズ

2-11

昭和6 一二六八一 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六二六號

往電第六二三號ニ關シ
 十九日午前三時交涉著日本科長ヨリ目下日本軍小商埠地公安局第一
 第二及第三分局ヲ占領シ更ニ城內ニ向ツテ進ミツツアル虞全然無抵
 抗ノ態度ニ出ツル方針ナルニ付日本軍ニ於テ發砲ヲ止メ又住民ニ暴
 逆ノ行爲ナキ様取計ハルニ付木ヲ防夕様ヲオレタキ旨電請ナリ
 右陣中軍側ニ通シ置キタリ

外務省

0 291

0016

REEL No. A-0066

0015

アジア歴史資料センター

正

バラフレイズ

2-11

昭和 6 一二六六六 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六三二號
 本庄軍司令官小十九日午前三時臨時列車ニテ旅順發當地ニ向ヘル旨
 軍側ヨリ通報ナリタリ

公使、南京、北平へ轉電セリ

外務省

0 293

0018

正

バラフレイズ

2-13

昭和 6 一二六六五 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 林總領事

第六三一號
 本庄軍司令官小十九日午前三時臨時列車ニテ旅順發當地ニ向ヘル旨
 軍側ヨリ通報ナリタリ

公使、南京、北平へ轉電セリ

外務省

6 0.3

0 292

0017

正

2-16

昭和6 一二六六〇 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 亞
 第六二五號 (至急極秘) 林總領事
 往電第六一八號ニ關シ
 各方面ノ情報ヲ綜合スルニ軍ニ於テハ滿鐵沿線各地ニ互リ一齊ニ積
 極的行動ヲ開始セムトスルノ方針ナルカ如ク推察セラル本官ハ在大
 連内田總裁ヲ通シテ軍司令官ノ注意ヲ喚起スル様措置方努力中ナル
 モ政府ニ於テモ大至急軍ノ行動差止メ方ニ付適當ナル措置ヲ執ラレ
 ムコトヲ希望ス

外務省

9.5

0 295

0020

正

2-16

昭和6 一二六八四 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 亞
 第六三五號 (極秘) 林總領事
 今次事件ノ原因ニ付テハ陸軍側ノ所報ニ疑ノ餘地多キモ差當リ外人
 側ノ質問ニ對シテハ陸軍側ノ説明通り回答シ居ル次第ナル處豫テ陸
 軍ノ積極方針宣傳セラレ居ルコトニモアリ果シテ充分ノ納得ヲ期待
 シ得ルヤ頗ル疑ハシト思考セラル就テハ右ニ關シ何等御意見モアラ
 ハ至急御回示アリタシ

外務省

9.5

0 294

0019

正

2-18

ワラフレイ

正

2-17

外務省

0.3

0 297

0022

昭和6 一二六八八 暗奉天 十九日前發
 本省 九月十九日前着 林總領事

幣原外務大臣

第六三七號 滿鉄線柳條溝附近ノ爆破サレタル柳條溝附近ノ滿鉄線ハ今朝六時頃修理完了列車ノ運行ヲ開始セリ

支、北平、南京、在滿洲各領事へ轉電セリ

滿鉄線柳條溝附近ノ爆破(昨十八日夜十時半頃)ノ箇所ハ今朝六時頃修理完了列車ノ運行ヲ開始セリ

外務省

9.5

0 296

0021

昭和6 一二六八七 暗奉天 十九日前發
 本省 九月十九日前着 林總領事

幣原外務大臣

第六三六號

十九日午前六時迄ノ狀況(警察報告)左ノ通り

一 商埠地及邊門内ハ大体全部我軍ニ占領セラレ本朝未明省城小西門ノ一角ヲ占領セリ

二 北大營ハ本朝二時半完全ニ占領セラレ支那軍隊ハ全部東方ニ退却セリ工業区内迫撃砲工廠及無線電臺モ未明占領セラレタリ

三 北寧線ハ滿鐵「クロス」點ニ於テ遮斷工事ヲ施シ北支那ニ通スル電信電話ハ全部切斷セラレタリ

四 師團司令部ハ午前四時半當地到着

支、南京、北平ニ轉電セリ

正

2-20

2-19

昭和6 一二七四〇 暗 奉天 十九日後發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日後著 林總領事
 第六四四號
 關東軍司令部十九日正午奉天ニ移リ事務所ヲ附屬地大廣場東拓ノ樓
 上ニ置ク
 支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セリ

外務省

9. 5

0 299

0024

昭和6 一二六九一 暗 奉天 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前著 林總領事
 第六三八號
 午前七時ノ狀況左ノ通
 日本軍ハ既ニ省城内各官署ノ占領ヲ了シ第二十九聯隊本部ヲ大北門
 外我方陸軍所有地ニ設置セリ尙城内ニハ通行者稀ニテ店舗ハ閉鎖サ
 レツツアリ目下ノ處甚タシク混亂ニ陥ルカ如キ模様ナシ
 公使、南京、北平へ轉電セリ

外務省

9. 5

0 298

0023

REEL No. A-0066

0019

アジア歴史資料センター

ハライス済

2-21

昭和6 一二七六五 暗 奉天 十九日後發
本省 九月十九日後着

正

幣原外務大臣

林總領事

第六四七號

十九日午後二時軍司令官キ會見シ本官カ事件發生後本官カ事件ノ擴
大ヲ防カムトシテ板垣參謀ニ申入レタル希望ヲ始メ對支那側及外人
ニ對スル處置其ノ他諸般ノ狀況ヲ説明シ對外人關係ノ重大性及治安
維持ノ必要ヲ語リ本官ハ尙出來得ル丈ケ事件ノ擴大セサルコトヲ希
望スルモ對外人關係及治安維持其ノ他ニ對シ全力ヲ舉ケテ軍ニ協力
スル覺悟アル旨ヲ申入レタルニ軍司令官ハ好意ヲ謝シ數日前沿線巡
視ニ當リ各軍隊ニ對シ有事ノ日ニ備フル爲常ニ充分ノ用意ヲ怠ラサ
ズヘキコトヲ命シタルモ決シテ早マリタル行動ニ出ツルコトナキ様
嚴ニ訓戒シ置キタルニ昨夜支那兵ハ滿鐵破壞キ引續キ附近ニ演習中
ノ我守備兵ニ對スル攻撃トナリ重大ナル事態ヲ惹起スルニ至レリ自

外務省

正

分ハ昨夜十時旅順ニ歸着シ僅ニ一時間後ニ報告ニ接シ事ノ意外ニ驚
キタルカ事茲ニ至リテハ沿線ノ治安維持ニ全力ヲ盡ササルヘカラス
其ノ爲ニハ總領事ノ協力ニ俟ツヤ切ナルモノアリト述ヘタルニ依リ
今後密接ナル聯絡ニ關シ打合ヲ遂ケタリ
轉電先、北平、公使、南京

外務省

0 301

0026

0 300

0025

REEL No. A-0066

アジア歴史資料センター



昭和6 一二七四八 暗 奉天
 本省 九月十九日後發 亞
 幣原外務大臣
 第六四八號
 往電第六四七號ニ關シ
 軍司令官ノ談ニ依レハ當地ハ幸ニ支那軍ノ退却ニ依リ表面一段落ヲ
 告ケタルモ長春ニ於テハ今尙戰鬪終結スルニ至ラサルカ多分今日中
 ニハ一段落ヲ告ケルモノト豫期シツツアリ朝鮮ヨリ約一ヶ旅團（飛
 行隊ヲ含ム）ノ應援隊二十日朝當地ニ着スル筈ナルカ只今ノ處軍ト
 シテハ新民屯ニ於ケル遼河ノ鐵橋迄ハ何等カノ措置ヲ爲ス必要アリ
 ト考フルモ四洮線等ニ對シテハ未タ何等ノ計畫ヲ爲シ居ラス云々
 支、北平、南京、長春へ轉電セリ

外務省

0027

0 302

昭和6 一二七六六 暗 奉天
 本省 九月十九日後發 亞
 幣原外務大臣
 第六四九號
 十九日軍司令官トノ會見ニ當リテハ往電第六二一號撫順ニ於ケル警
 備會議ニ關スル報告ヲ十七日夜接手シ軍司令官ニ書翰ヲ以テ注意ヲ
 喚起ノ通信ヲ發シタル點等本省ニ報告濟ナル旨ヲモ語り置キタリ御
 含迄
 轉電先、公使、南京、北平

林總領事

外務省

0028

0 303

昭和6 一二七六二 暗 奉天 十九日後發
本省 九月十九日後着

幣原外務大臣

林總領事

第六五〇號

本官發在支各公館及香港宛電報合第四五一號

本官發大臣宛電報第六一六號(本十九日)午後二時半迄ノ狀況大要左ノ通

一十八日午後十時半當(本十九日)地北大營ノ支那軍三四百名(本十九日)間營西南方滿鐵本

線ヲ爆破シ(十九日)朝復舊(本十九日)柳條溝方面ニ前進中ヲ我カ鐵道巡察兵

發見彼我交戦トナリ我軍ハ北大營ヲ包圍シ其ノ一隊ハ北門外ニ迫リ

別働隊ハ商埠公安局ヲ占領シ十九日未明城内各官署、北大營、追擊

砲工廠及無電臺ハ我軍ノ有ニ期シ駐劄第二聯隊本部ハ城内我カ陸軍

所有地ニ設置セリ(本十九日)未明

ニ此ノ間北寧線ハ滿鐵「クロス」點ニ於テ遮斷工事ヲ施シ北支方面

トノ電信電話ハ全部切斷サル(本十九日)未明

ニ關東軍司令部ハ十九日午前三時旅順發同日正午當地附屬地内ニ移

外務省

0029

0 304

設(セ)ラレ

四事件發生ト共(本十九日)城内居住邦人ハ滿鐵公所ニ邊門内居住者ハ赤十字

病院及朝鮮銀行ニ任意引揚ケシメタル外在留外人保護ニ付テハ軍部

ト協議シ萬全ヲ期シツツアリテ何レモ死傷者ナシ(我軍側ニハ數名ハ

重輕傷者アリ)

發城内ハ店舗ヲ閉鎖シ混亂ノ模様ナシ(本十九日)未明

本滿鐵沿線各地ヨリ軍増援隊來奉シツツアリ又沿線主要地ニ於テモ

當地同様支那兵ノ武裝解除等ヲ行ヒツツアリ

本電左記ニ依リ轉電又ハ轉報ヲ請フ

公使ヨリ上海、漢口、蘇州、杭州、蕪湖へ

漢口ヨリ鄭州、九江及上流各館へ

廣東ヨリ香港、雲南へ

濟南ヨリ張店、博山へ

青島ヨリ芝罘、坊子へ

外務省

0030

0 305

正

2-25

正

昭和6 一二七六三 暗 奉天 九月十九日後發
 幣原外務大臣 本省 林總領事
 第六五二號
 本官發牛莊宛電報
 貴電合第一八號末段ニ關シ
 日本軍ハ海關ノ管理ヲ爲サントスル意向ナルヤノ趣ノ處本官軍司令
 官ニ面會ノ際質問シタルニ司令官ハ我軍ハ海關ニ對シテハ何等干涉
 セサル様訓令濟ナル旨答へ居タリ
 支、北平、大臣、南京へ轉電セリ

外務省

0.5

0 307

0032

北平ヨリ赤峰、張家口へ
 間島ヨリ四分館へ
 哈爾濱ヨリ齊齊哈爾、滿洲里へ
 長春ヨリ吉林、農安へ
 鐵嶺ヨリ掬鹿へ
 安東ヨリ通化へ
 大臣、公使へ轉電セリ

外務省

0.3

0 306

003i

REEL No. A-0066



アジア歴史資料センター

昭和6 一二七六〇 暗 北平

本省 九月十九日後着

矢野参事官

幣原外務大臣

第四一二號ノ一

十九日朝湯蘭和張學良ノ命ヲ含ミテ來訪奉天事件ニ關シ唯今迄學良ト相談ノ上來訪セリトテ左ノ通詰セリ

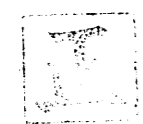
一 實小昨夜十時日本兵數十人奉天北大營背面ノ壁ヲ破壞シ進入射撃ヲ開始シタルニ付隊長ヨリ城式隊ニ指揮ヲ仰キタルニ賊ハ日本軍ニ應射スルコトナク武器等ハ倉庫ニ藏メタル上退去スヘシト命シタル趣ニテ同兵營ノ間モナク占領セラレ南時キ兵工廠モ占領セラレタリ

引續キ商埠地内ノ電信電話警察等全部占領セラレ更ニ今朝四時キ至リ城内ニ進入各官署及元帥府ヲ占領シ爾後奉天ヨリノ通信ハ完全ニ杜絶セリ尙今朝ニ至リ皇姑屯モ占領セラレタリ

外務省

0 312

0037



臧主席ハ

ニ本件發生スルヤ賊主席小直ニ林總領事ニ電話シ五分間以内ニ軍隊ノ行動制止方申入レタルニ同總領事ハ十分ノ猶豫ヲ求メタルカ其後軍事行動ノ引續キ進行セルヲ以テ再ビ賊ヨリ同總領事ニ電話セルニ同總領事ハ軍事行動ハ制止スル事能ハサル旨回答アリタル由

ニ右様事情ニテ林總領事ハ本件ニ付テ小事前ニ於テ何等關知スル所ナキ様思ハルルカ他方滿鐵側モ同様ナリト認テラル(引續ク)

外務省

0 313

0038

昭和6 一二七六七 暗

北平 本省

十九日後發 九月十九日後着

幣原外務大臣

矢野參事官

豆

第四一二號ノ二(至急)

現于學良ハ本月中ニ内田總裁ト會見ヲ希望シ、
奉天ニテ面會シ度ク出來得レハ北平ニ來訪方申入レタルニ聞總裁ヨリ北平ニ來ル旨ノ回答アリ學良モ非常ニ喜ビ待チ居ル次第ニシテ又木村理事モ江藤ヲ通シ自分(湯)ニ對シ來平ノ意向ヲ通シ來レル有様ニテ旁滿鐵側モ悉ク本件ニ關係ナカレヘシ
本件原因ハ全然不明ナルモ日本新聞電報ニ依レハ支那兵力鐵道ヲ破壞セントセリトカ滿鐵ト平奉線交叉點ノ破壞ヲ企テタリ等傳ヘ居ルモ絕對ニ斯ル事ナシ

外務省

0 314 0039

本件ニ付林總領事及滿鐵ノ承知セサルハ既述ノ如クナルカ、
東京内閣モ之ヲ承知シ居ラサルヤニモ思ハル本件ノ承知ハ或ハ民政黨内閣ヲ倒サントスル政治的障礙ヲルニアラサルカト推セラレ何レニスルモ本件ノ勃發ハ自分(湯)等ニ於テ折角努力シ來レル親善關係ヲ損傷スルニ至ルヘク遺憾至極ナリ
本件在奉天北平間ノ通信機關全然杜絶セラレ居ル其後大事情ハ一切判明セス又東三省方面治安維持ノ命令ヲ發スル事モ出來ルニ付先ツ通信ノ恢復ヲ計ルニ付右御意力ヲ得度ク併セテ本件ノ事情等詳細承知致シ度シ
支 南京、奉天、天津へ轉電セリ

外務省

0 315 0040



張

昭和6 一二七七九 暗 北平 十九日後發
 本省 九月十九日後着 亞
 幣原外務大臣
 第四一七號 (至急)
 矢野參事官

往電第四一五號ニ關シ
 千九日朝學長江藤ニ左ノ通内話セル趣、本件ニ付テ小昨夜十時
 以後頻々ト報告アリタルカ、自分ハ昨夜十二時日軍ニ對シテハ絕對無
 抵抗ニテ武装解除キモ甘願ニテ旨訓令濟才支那側ノ絕對無抵抗ノ
 態度ニ願ミ事件ハ之以上進展セサルキハハントモ思考シ居リ
 右何等御參考違
 支、南京、奉天へ轉電セリ

外務省

0041

0 316

ハミラレバ



昭和6 一二七四二 暗 天津 十九日後發
 本省 九月十九日後着 亞
 幣原外務大臣
 田尻總領事代理

第三二三號
 奉天ニ於ケル日支兵衝突事件ニ關シ各漢字紙小瀋陽來電トシテ日本
 軍隊ガ瀋陽城ヲ占領シ北大營ヲ砲撃シ多數ノ軍民ヲ殺害セリ等煽動
 的辭句ヲ用キテ號外ヲ撒布シ居ルヲ以テ不取敢省及市政府並ニ公安
 局ニ對シ當方面ニ於テ不祥事件ノ發生防止方ニ付警告シ置キタルカ
 公安局ニ於テハ全市警察署長ヲ召集シ此際日本人ト事ヲ起ササル様
 保護取締方ニ關シ訓話ヲナシ又王樹常ハ自ラ兵營ニ赴キ所屬部隊ニ
 對シ同様訓話シタル由ナリ尙在留邦人ニ對シテハ各自行動ヲ慎ミ間
 違ナキ様注意シ置キタリ
 支ヨリ上海へ轉報アリタシ
 支、北平、奉天、南京へ轉電セリ

外務省

0042

0 317



2-33

昭和 6 一二七三九 暗 營口 十九日 後發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日 後着 荒川領事
 第四一號 (至急)
 本日午前十時半ヨリ營口及河北ニ軍政ヲ布ク旨關東軍司令官ヨリ發
 (令)セラレタリ
 支、奉天、北平へ轉電セリ

外務省

0.5
19

0 319

0044



2-32

昭和 6 一二七〇七 暗 營口 十九日 前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日 前着 荒川領事
 第三六號 (至急)
 奉天日支衝突事件ニ關シ本十九日午前五時三十分大石橋守備隊長以
 下約三百來營當館ニハ何等ノ交渉モナク約二百名ハ練軍營及商埠公
 安局側ノ武装解除ニ着手中當地支那軍隊等ハ無抵抗ニテ武装解除ニ
 應シツツアリ他方約百名ハ河北驛ヲ占領シ進テ田庄台ニ駐在シ支那
 軍隊ノ武装解除ニ赴ク趣ナリ木取敢
 支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

0.3
19

0 318

0043

正

2-35

昭和6 一二七二七 暗 營口 本省 九月十九日 後發

幣原外務大臣

第三八號(至急)

往電第三七號ニ關シ

軍側ヨリ追テ占領地ニ軍政ヲ布クニ至ルヘキニ付之ニ對シ本官ノ協
力ヲ求メ來リタル處如何ナル態度ニ出ツヘキカ至急御回電ヲ請フ
因ニ軍側ニ於テハ關稅及鹽稅ノ管理ヲモ行フ意嚮ト認メラルルヲ以
テ此點特ニ考慮アリタシ

支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

0.5
20

0 321

0046

は(1)

正

2-34

昭和6 一二七一三 暗 牛莊 本省 九月十九日 前發

幣原外務大臣

第三七號(至急)

營口市及河北ハ第三大隊ノ手ニ依リ午前九時何等ノ抵抗ナク全部占
領セラレタリ

支、北平、奉天ニ轉電セリ

外務省

0.5

0.320

0045

は(1)



昭 和 6 一 二 七 九 八 暗 牛 莊 十 九 日 後 發
 本 省 九 月 二 十 日 前 着 荒 川 領 事
 幣 原 外 務 大 臣
 第 四 三 號
 往 電 第 四 一 號 二 關 シ
 本 十 九 日 午 前 十 時 半 領 事 本 館 ニ 獨 立 守 備 步 兵 第 三 大 隊 本 部 ヲ 設 置 セ
 リ
 支、奉天、北平へ轉電セリ

外 務 省

0047

0 322

0.5

昭 和 6 一 二 六 九 八 暗 安 東 十 九 日 前 發
 本 省 九 月 十 九 日 前 着 米 澤 領 事
 幣 原 外 務 大 臣
 第 一 二 二 號
 奉 天 發 貴 大 臣 宛 第 六 一 六 號 二 關 シ 安 東 守 備 隊 ハ 鳳 凰 城 ニ 於 ケ ル 支 那
 軍 隊 武 裝 解 除 ノ 目 的 ヲ 以 テ 本 朝 三 時 半 ノ 臨 (時) 列 車 ニ テ 百 五 十
 名 (五 十 名 殘 留 ス) 同 地 ニ 向 ケ 出 動 セ リ 右 不 取 敢
 支、南京、北平、在滿洲各領事へ轉電セリ

外 務 省

0048

0 323

0.5



2-39

昭和6 一二七七二 暗 安東 十九日後發 亞
 幣原外務大臣 本省 九月十九日後着 米澤領事

第一二七號

連山關獨立第四大隊本部ハ第一第二第三ノ各中隊並ニ機關銃隊步兵
 砲隊通信隊等ヲ率ヒ安東占領ノ目的ヲ以テ本十九日當地來着ノ營ニ
 シテ場合ニ依リテハ當地海關收入ヲ徵發スヘントノ趣ナリ因ニ當地
 ノ武裝解除ハ午前中ニ解決セリ

尙龍山第二十師團六個列車ニ分乘本日午後二時ヨリ明朝迄ノ間ニ當
 地通過北上平壤飛行隊ハ本日午後四時新義州發北上ノ豫定ナリト謂
 フ

前電ノ通轉電セリ

外務省

9. 5

0 325

0050



2-38

昭和6 一二七二八 暗 安東 十九日前發 亞
 幣原外務大臣 本省 九月十九日後着 米澤領事

第一二四號

往電第一二二號ニ關シ

鳳凰城ノ武裝解除ハ午前八時半全ク終了シ安東公安隊ノ武裝解除ハ
 六時ヨリ開始目下續行中尙主要官衙ハ軍ニ於テ保障占領ヲ爲シツツ
 アリ

前電ノ通轉電セリ

外務省

9. 5

0 324

0049

REEL No. A-0066

0032

アジア歴史資料センター

正

パフレイズ済

41

2-40

正

昭和6 一二七七八 暗 南京 十九日後發 亞
 本省 九月十九日後着

幣原外務大臣 上村領事

第五五〇號

奉天宛貴電第一八九號ニ關シ
 南京側ニ於テ本件成行ニ付頗ル憂慮シ居ル模様ナルニ付十九日日本
 取敢徐謨ニ對シ冒頭貴電發表ノ趣旨ヲ單ナル「インフオーメイショ
 ン」トシテ傳ヘ置キタルカ其際徐ハ本件ニ關スル詳細ノ報告ハ未タ
 到着シ居ラサルモ兩國ノ爲誠ニ不幸ナル事ニテ痛心シ居ル次第ナル
 カ日本政府ノ事態ノ擴大防止ニ決意セラレタルハ不幸中ノ幸ナリト
 逃入居タリ御參考迄ト

支、奉天、北平へ轉電セリ

外務省

0.3

0 327

0052

昭和6 一二七三七 暗 南京 十九日後發 亞
 本省 九月十九日後着

幣原外務大臣 上村領事

第五四八號

奉天附近ニ於ケル日華軍隊ノ衝突事件ノ王外交部長ノ許ニ十九日午
 前三時奉天交渉員ヨリ來電アリ王部長ハ直ニ臨時政治會議ヲ召集ス
 ル意嚮ナリシカ于右任ノ說ニ依リ先ツ蔣介石ノ意嚮ヲ徴シタル上會
 議ヲ開クコトトナリタル趣ナリ
 尚奉天城占領ノ報キ既テ外交部ニ到達シ居ル模様ナルカ中國側ハ本
 件ニ極メテ慎重ニ取扱ヒ居リ日本記者等ノ質問ニ對シテモ詳細ノ報
 件ニ接シ居ラヌトテ意見ノ表示ヲ避ケ居レリトノコトナリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、奉天、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

外務省

0.3

0 326

0051

正

昭和6 一二八二七 暗 南京 十九日後發 本省 九月二十日前着 亞

幣原外務大臣 上村領事

第五五六號

往電第五五〇號ニ關シ

本十九日夜八時ヨリ中央黨部ニ於テ在京政府黨部ノ要人ヲ網羅スル
緊急會議ヲ開催シ日本軍ノ奉天占領ニ關シ協議スルコトトナレル趣
ニテ又蔣主席ハ今朝九江ニ着シタル筈ナルニ依リ其歸京ニ便スル爲
本日當地ヨリ飛行機一臺九江ニ向ヘリトノ説アリ右開込ノ儘
支、北平、奉天、天津、漢口、九江へ轉電セリ

外務省

0053

0 328

昭和6 一二八一九 暗 滿鐵構内 十九日後發 本省 二十日前著

幣原外務大臣 (極秘) 内田總裁

本回ノ事件ノ擴大性ニ付テハ領事館員ニ對スル板垣參謀ノ口吻ヨリ
察スルニ滿鐵沿線ニ於ケル支那側兵用地ノ軍事占領續行スルモノト
思ハル鳳凰城へノ進軍ハ其一例ナリ支那側ノ態度ハ頻々タル總領事
へノ電話要求ニ依リ察スルニ皇姑屯事件ノ際ノ如ク無抵抗主義ヲ執
レリ此ノ結果外交上至難ナル事態ヲ惹起スルハ想像ニ餘リアリ此ノ
軍事占領ノ理由ハ北大營ニ屬スル支那兵力鐵道ヲ破壞セリト謂フニ
アルカ唯今迄我社保線係ヲ三度現場ニ差向ケタルモ入場ヲ拒絕セラ
レ或ハ「レール」ヲ外セリトカ或ハ爆彈ニテ破壞セリトカ情報區々
ナリ今回軍隊出動ノ計畫ハ既ニ二十四日以來非常演習トシテ豫行セラ
レタリ
撫順守備隊長ノ炭坑社員等ニ極秘トシテ傳ヘシ軍事行動ノ時期ハ一

外務省

0054

0 329

正

パリフレイズ

2-44

正

昭和6 一二七三四 暗 上海 十九日後發
 本省 九月十九日後着 重光公使
 幣原外務大臣
 第九七六號
 本使發在支各領事宛電報
 合第一一八三號(大至急)
 本領ノ奉天事件ニ關シテハ差當リ左ノ方針ニ依リ善處スルコトト致
 シタシ
 一 外部ニ對シテハ今同ノ事件ハ中國側軍隊ヲ滿鐵線路ヲ破壞シ及駐
 屯軍ヲ襲撃セラルカ爲ニ突發セル地方ノ事件トシテ之ニ依リ兩國
 交全體ニ悲影響ヲ及ボササル様努力スルコト
 二 中國側地方官憲ニ對シ在留民ノ保護ニ付有效ナル措置ヲ執ラシム
 三 爲之ニ密接ナル聯絡ヲ取リ其他在留民保護ノ爲萬遺憾ナキヲ期
 スルコト

外務省

0.3

0 331

0056

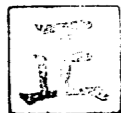
日遲レシモ時刻ハ符節ヲ合シ而モ第一ノ目標トシテ支那飛行機格納
 庫ノ附近ト稱セシハ今占領中ノ北大營ニ外ナラス事件ノ發生セシ日
 ノ朝驛員カ建川少將ト認メシ人物安奉線ニ依リ來奉セリ其他種々ナ
 ル情報ヲ綜合シ我軍今回ノ行動ハ豫テ御話セシ豫定計畫ノ實現ト推
 定セラル將又支那側ノ無抵抗態度ト我軍事行動ニ伴フ小事故カ在留
 外人ヲ刺戟シ世界ノ輿論カ我方ニ不利ナル傾向ヲ現ハシ今後ニ於ケ
 ル對外政策益々難局ニ陥ルナキヤ憂慮ニ堪ヘス

外務省

0.5

0 330

0055



往電

2-45



昭和6 一二七五〇 暗 上海 十九日後發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日後着 重光公使
 第九七八號
 本使發南京宛電報 第一八三號
 往電合第一一八三號ニ關シ
 本使ノ傳言トシテ外務大臣發本使宛電報第三六五號ノ次策南電未般
 通我方ノ出先官憲ニ對シ既ニ訓令濟ナル旨ヲキ説明セラレタリ
 李急主外交部長申入レラレタリ
 大臣、奉天、北平、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東、關東長
 官へ轉電シ上海へ轉報セリ

外務省

0 333

0058

在留民ニ對シテハ其行動ヲ慎ミ徒ニ民國人ヲ挑發スルカ如キ行動
 奉天ヨリ吉林、哈爾濱及在滿各領事へ、間島ヨリ管下分館へ、北平
 ヨリ張家口及赤峰へ、青島ヨリ坊子へ、濟南ヨリ張店博山へ、漢口
 ヨリ長沙、宜昌、沙市、重慶、九江、成都、鄭州へ夫々轉電アリタ
 大臣、香港へ轉電セリ

外務省

0 332

0057

2-46



昭和6 一二七五二 暗 上海 十九日後發
 本省 九月十九日後着 重光公使 亞

幣原外務大臣
 第九八一號 (極秘)

十九日田代武官ハ奉天事件ハ豫々中村事件交渉ノ際ニ用意シアリタル陸軍側ノ計劃ヲ十八日夜ノ事件ニ依リテ其儘實行サレタルモノト思ハル旨ヲ述ヘ居タリ御參考迄 (右情報ノ出所ハ省外ニ洩レサル様セラレタシ)

外務省

0 334

0059

2-47



昭和6 一二七七六 暗 上海 十九日後發
 本省 九月十九日後着 重光公使 亞

幣原外務大臣
 第九八三號

十九日伊國代理公使來訪其ノ情報ニ依レハ張學良ハ十九日各國公使館ニ派員シ日本軍ハ今朝六時奉天ニ於テ兵工廠其ノ他主要建築物ヲ占領シ占領行爲ハ目下擴大セラレツツアリト報シタル趣ナリ代理公使ノ蘭ニ對シテハ本使ヨリ往電第九七四號宋子文ニ與ヘタルト同様ノ説明ヲ與ヘ置キタリ

奉天、南京、北平へ轉電セリ

外務省

0 335

0060

正

外務省

中村事件ノ發生等モアリテ双方ノ感情殆んど最高潮ニ達セリ而シテ最近ノ右ノ結果ハ甚々類案ニ民國側ニ於テ滿鐵ノ交通妨害ノ行爲ナリテ現ハレ交通妨害ノ事故甚々多ク日本鐵道守備隊ハ之ヲ防遏スルニ忙殺セラレタリ然ルニ十八日ノ夜ハ國民兵士カ相當ノ數ヲ以テ鐵道ヲ破壞トモ疑ハルル妨害行爲ヲナシタル爲茲ニ守備隊トノ間ニ衝突起リ大事ニ到リシモナリ

奉天ヨリ(分館ヲ除ク)間島ヲ除ク在滿各領事へ
漢口ヨリ長沙、宜昌、重慶、九江、成都、鄭州へ
北平ヨリ赤峰、張家口へ夫々轉電アリタシ
北平、在支各領事へ轉電セリ

0 337

0062

正

2-48

外務省

昭和6 一二七四三 暗 上海 十九日後發
本省 九月十九日後着 重光公使

幣原外務大臣
第九七七號(至急)

往電第九七四號ニ關シ
十九日申宋子文ニ會見ノ際宋ハ先ツ本事件ノ真相ニ付尋ネタルヲ以テ左ノ如ク答ヘ置ケル不取敢

「未タ」公電ニ接シ居ラヌ從テ的確ノコトハ承知セサルモ新聞情報ヲ綜合シ且自分ノ想像ヲモ加ヘ判斷スルニ未タ如シ

最近日民兩國人々間ノ感情益々尖鋭化シ來リタルハ事實ニシテ民國側ニテハ或ハ黨部又ハ政府部内ノ人サヘモ其言論演說等ニ於テ又新聞其他並ニ學校ノ教科書ニ於テスラ恰モ日本ヲ敵國ト如ク取扱ヒテ議論スルモノ多ク右ハ漸次日本ニ反映シ日本人ノ神經ヲ刺戟シ居タル處種々ノ具體的事實ニ伴ヒテ益々其感情昂マリ特ニ滿洲ニ於テハ

0 336

0061

正

2-50

昭和6 一二七五五 暗 吉林 十九日後發
幣原外務大臣 本省 九月十九日後着 石野總領事

第九三號

今十九日午前四時半奉天特務機關ヨリ當地大迫瀨間へ及吉長滿鐵伏
表ヨリ當館へノ至急情報ハ昨十八日午後九時半奉天附近ノ滿鐵線カ
支那軍隊ニ依リ破壊セラレタル爲日本軍出動シ奉天北大營ノ支那兵
營ヲ占領シ長春日本軍亦同地支那軍ノ武装ヲ解除セル旨ヲ傳ヘタリ
依テ今朝來秘ニ支那側ノ動靜ヲ探リタルニ支那軍部ハ未明ヨリ會議
中ナルカ如キモ市面ニハ殆ト何等動搖ノ模様ヲ認メサル處關東軍ハ
此機會ニ徹底的ニ支那軍ヲ抑ヘン計畫ナリトノ情報モアリ之以上事
件ハ擴大豫想セララルカ吉長滿鐵代表ヨリ當地居留民引揚ノ場合臨
時列車ヲ仕立ツヘキ旨ヲ出アリタルモ暫ク大勢ヲ見極ムルコトトシ
事態ニ依ツテハ差當リ居留民ヲ當館へ收容保護スルノ手配ヲ爲シツ

外務省

0 339

0064

正

2-49

ハラフレイス

昭和6 一二七九五 暗 上海 十九日後發
幣原外務大臣 本省 九月二十日前着 重光公使

第九八七號

事件ノ報道ニ接スルト共ニ各領事ニ對シテハ其心得方ニ付訓令ヲ發
シ且陸ノ海軍武官ヲハ特ニ本便ノ趣旨ヲ含メ且海軍武官ヨリ在漢口
ノ司令官ニ對シ必要ノ聯絡ヲ執リ右ノ趣旨ヲ傳ヘシメ置ケリ右ハ其
後貴電屢次ノ御趣旨ニ叶ヘルモノト心得居レリ
北平、奉天、漢口へ轉電セリ

外務省

0 338

0063



2-51

バラフレイン



外務省

昭和6 一二六八三 暗 長春 十九日前發
 本省 九月十九日前着 田代領事
 第九二號 (至急)

柳條溝鐵道破壞事件ニ關シ十九日午前二時四十五分當地旅團長ハ軍
 司令官ノ命ニ依リ當地駐屯第四師隊及公主嶺騎兵聯隊ヲ指揮シ長春
 ノ警備ニ任シ長春附近ニ才々支那軍隊ヲ對シ密ニ攻撃ヲ準備スル事
 トナリタルカ之ヨリ先當地聯隊二個中隊ハ南嶺他兵攻撃ニ向ヒタリ
 支、奉天、哈爾濱、吉林、南京、北平、安東、牛莊、遼陽、鐵嶺へ
 轉電セリ

0.3

0 341

0066

外務省

以上十九日午前八時
 ツアリ (十九日午前八時)
 長春、奉天、哈爾濱、間島、北平、南京、支、關東長官、朝鮮總
 督へ轉電セリ

0.3

0 340

0065

REEL No. A-0066



アジア歴史資料センター

正

2-53

ハラフレイズ

昭和6 一二七七五 暗 長春 十九日後發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日後着 田代領事

第九五號

吉林熙參謀長ヨリ十九日午前六時電話ヲ以テ並午後二時特使ヲ以テ
 長春附近ニ在ル支那軍ニ對シ絕對無抵抗ノ態度ヲ執リ之ニ違背スル
 モノハ死刑ニ處スヘシト命シ來リタル旨公安局長並外交科長ハ午前
 十時頃相前後シテ當館ニ來訪内話シ之ヲ軍部ニ傳ヘテ此ノ上人命ヲ
 損セサル様本官ヨリ料旋方依頼越ス處アリ本官ニ於テモ事件ノ擴大
 防止ノ見地ヨリ右申出ヲ容レ早速旅團長ヲ往訪布ノ次第ヲ傳ヘタル
 ニ軍部ハ南嶺軍並支那街軍隊ノ武装解除及公安局ノ指揮權ヲ我方ニ
 移スコトニ依リ此ノ上ノ攻撃ヲ中止スヘシトノコトナリシニ付長春
 市政籌備處長並市公安局長ヲ當館ニ呼寄セ憲兵分隊長同席ノ上本官
 斡旋ノ結果午後三時軍ノ布達通り交渉成立シ午後四時半其當館ニ移

外務省

0 343

0068

正

2-52

ハラフレイズ

昭和6 一二七〇四 暗 長春 十九日前發
 幣原外務大臣 本省 九月十九日前着 田代領事

第九四號

往電第九三號ニ關シ

寬城子ニ向ヒタル我二個中隊ハ崗地兵營ヲ占領シタルモ支那兵射撃
 ヲ止メサル爲引續キ交戦中又南嶺ニ赴キタル二個中隊ハ支那砲兵隊
 ノ大砲破壊作業ニ從事中ナル趣ナリ尙公主嶺ヨリ騎兵擲隊(一個中
 隊編成)及守備隊二個中隊應援ノ爲當地ニ出發セリトノコ
 トナリ當地城內方面支那兵ノ活動未タナキモ萬一ヲ慮リ附屬地ノ警
 戒ヲ最善ノ努力ヲ拂ヒツツナリ(午前七時半) 轉電先前電ノ通

外務省

0 342

0067

正

2-54

2-54

正

外務省

昭和6 一二七三一 暗 關東廳 十九日後發
 幣原外務大臣 塚本關東長官
 第一〇七號

奉天北大營駐劄之步兵(昨)
 十八日午後十時五十分柳條溝附近滿鐵線路ヲ奉天北大營駐劄支那兵
 カ爆破シ我鐵道守備隊ヲ襲ヒタルコトヲ端ヲ發シ日支軍隊衝突ト
 ナリ在滿各地ノ軍隊ノ大部分奉天ニ集中サレタルト共第一師團司令
 部及關東軍司令部ハ奉天ニ移動セリ

0.3

0 345

0070

外務省

支、南京、北平、在滿洲各領事ニ轉電セリ

0.3

0 344

0069

正

外務省

四 吉林居留民ハ同地總領事館ニ收容ノ手配ヲ爲シ吉長關係家族十二
 三名ハ當地ニ引揚ケタリトノ情報アリ
 五 滿鐵東支吉長三線トモ目下ノ處多少發着不規則ナルモ大体平常通
 リ運行シ居レリ
 六 在旅順三十聯隊ハ當地ニ出動旅團長ノ指揮下ニ入ルコトナレリ
 支、南京、北平、在滿各領事ニ轉電セリ

は(3)

0 347

0072

正

外務省

2-55

昭和6 一二七四六 暗 長春 十九日後發
 本省 九月十九日後着 田代領事
 幣原外務大臣
 第九五號
 往電第九四號ニ關シ
 一 寬城子駐屯ノ歩兵四個中隊ノ大部分カ武装解除ヲ了シタルモ一部
 分ハ頑強ニ抵抗シタル爲砲撃ヲ加ヘ午前十時半完全ニ兵營ヲ占領
 セリ右戦闘ニ於テ支那側死者十三名負傷者十一名日本側死傷約廿
 名尙軍部ニ於テハ東支線寬城子停車場所在ノ運轉材料ヲ押收ノ豫
 定ナリト(前電我方軍隊二個中隊トシタルハ三個中隊ノ誤)
 二 南嶺駐屯砲兵及歩兵各一聯隊ニ對シテハ公主嶺ヨリ來援ノ騎兵一
 個中隊及守備隊二個中隊ヲ加ヘ五個中隊ヲ以テ目下交戰中
 三 當地支那町在任邦人ハ醫師二名ヲ除クノ外全部附屬地ニ引揚ケラ
 了セリ

は(3)

0 346

0071

REEL No. A-0066

0043

アジア歴史資料センター

昭和6 一二八二一 暗 牛莊 十九日後發 亞

幣原外務大臣 荒川領事

第四二號

瓦房店警察署長ヨリノ電話報告ニ依レハ同地ニ於ケル鹽務本局公安局ノ武装解除ハ平穩ニ終了セル趣ナリ

外務省

0073

0 348

パラフレイ文書 2-57

昭和6 一二七九六 暗 上海 十九日後發 重光公使 亞

幣原外務大臣 第九八六號(九八七)

在電第九八五號(甲本ノ際貴電第三六五號及合第五五六號ヲ英文ヲ譯シタルモノヲ示シ政府ノ意向ハ本件ヲ成ル可ク擴大セサル方針ニテ既ニ當面ノ局ニ當リ居ル陸軍大臣モ同様ノ意見ニテ真ノ趣旨ヲ以テ關東軍司令官ニ訓令ヲ發シタル次第ナリ皆ヲ説明シ居留民ノ保護ニ付相互ニ充分ノ措置ヲ執ラレ度キ旨申入レタル處宋字及ハ充分諒解シ居留民ノ保護ニ付テハ自分ヨリキ日本政府ト同様ノ措置ヲ執ルヘキ旨南京ニ電報スヘシト述ベテリ
布會見ノ際偶々張群市長同席セル故南市長ニ對シテハ本件ハ村井總領事ヲシテ申入置カシメタルカ本官ヨリモ申入ルル次第ナリト述ベタル處張群ハ上海居留民ノ保護ニ付テハ自分ハ充分ニ責任ヲ以テテ手

外務省

0074

0 349



2-58



昭和6 一二七八四 暗 上海 十九日後發
 幣原外務大臣 本省 九月二十日前着 重光公使
 第九八六號 (至急極秘)
 往電第九七四號ニ關シ
 宋子文ノ提案ハ今日差迫リタル滿洲ノ事態ニハ適合セサルヤモ知レ
 サルモ我々ノ事件ニ對スル全體ノ立場ヲ強ムルコトトナルヘク且將
 來之ヲ有利ニ利用スルコトモ出來ルコトト思ハルルノミナラス中國
 側空氣ノ激變ニ對スル備ヘトモナリ譯ナレハ先ツ主義トシテ贊成ヲ
 表セラレキ然ルヘシト存セラレ何分ノ御趣意折返シ御回赤ヲ請フ
 右委員ノ構成ノ如キハ更ニ考量ヲ盡サルルモ可ナリト存ス
 奉天、南京、北平へ轉電セリ

外務省

9.3

0 351

0076

配スヘケレハ日本側陸戰隊其他ノ行動ヲ慎ム様取計ハレ度シト答ヘ
 タルニ付本官ハ無論右ハ既ニ取計濟ミナレハ御心配無キ様ニト答ヘ
 向張群ハ非常ニ興奮シタル由物ニテ自分カ天津ヨリ得タル電報ニ依
 リハ日本軍ハ既ニ奉天全市ヲ中領シ且營口ヲモ占領シタル趣ナリ即
 チ事件擴大セスト云ハルルモ事件大イニ擴大シ居ル理ニテ自分等ノ
 諒解ニ苦シム處ナリト述ヘタルニ付本官ハ日本政府ノ意思ハ出來タ
 ル事ハ別トシ此上事件ニ對シ善處ヲ度キ意南ナリト述ヘ置キタリ
 北平、南京、奉天へ轉電セリ

外務省

9.3

0 350

0075

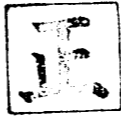


外務省

ラクス
ル様致スベキ旨答ヘタリ右不取敢
奉天ヨリ在滿各領事ニ轉電アリタシ
北平ヨリ張家口へ轉報アリタシ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ
大臣、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、關東長
官、朝鮮總督へ轉電セリ

0078

0 353



外務省

大臣發貴公使宛第三六五號ニ關シ
十九日夕本官徐謨ヲ往訪シ政府ヨリ重光公使宛訓令アリタルカ事態
急ヲ要スルニ付特ニ本官ヨリ申入ルル次第ナリト前提シ大臣來訓ノ
次第ヲ説明シタルニ徐謨ハ日本政府カ日本ニ於ケル中國在留民保護
ニ關シ速ニ執ラレタル配慮ヲ感謝ス國民政府トシテモ報復行動ノ如
キ事件ニ依リ此ノ上事態紛糾セシムルコトハ最希望セサル所ナル
ニ依リ南京及附近ニ於テハ既ニ不祥事件突發ノ豫防並ニ日本在留民
ノ保護ニ關スル必要ナル手配ヲ了シタリ早速各地方官憲ニモ訓令ス

0 352

0077

昭 和 6
幣 原 外 務 大 臣
第 五 五 二 號 (至 急)
本 官 發 在 支 公 使 宛 電 報
第 五 一 八 號

昭 和 6 一 二 七 九 三 暗
南 京 十 九 日 後 發
本 省 九 月 二 十 日 前 着
上 村 領 事

正

正

2-60

昭和6 一二七七四 暗

遼陽 本省

十九日後發 九月十九日後着

亞

幣原外務大臣

山崎領事代理

第二二號(極秘)

往電第二一號ニ關シ

當地軍奉天出動前後狀況御參考迄ニ電報ス

(一)十九日午前零時半北大營事件突發ノ情報ニ接シ本官ハ不取敢情報交換旁當地軍部ノ行動ヲ確カムル爲即時多門師團長ヲ官舎ニ往訪シタル處就寢中ナリシ如ク暫ク待タサレタル後師團長高級副官共ニ和服姿ニテ迎接シ又參謀長ハ稍遲レテ軍服ニテ情報持參馳付ケ來リ打揃フテ面談シタルカ其際師團長ハ即座ニ在遼陽各部隊ニ出動ヲ命シ裝甲列車及貨物列車ニテ敏速ニ前電通り出發シタリ

(二)之ヨリ先本庄關東軍司令官檢閱ノ爲當地滯在中去ル十七日午後附屬地内演習ヲ檢閲シタル後軍隊輸送ノ豫行演習ヲ行ヒ遼陽驛倉庫内

外務省

9.5

0 354

0079

ニ常備セ(ル)裝甲列車九輛ヲ本線ニ引出シ不時ノ使用ニ堪ヘルヤ否ヤヲ檢査セリ

(三)又同軍司令官滯在中師團司令部ニ於テハ軍首腦者間ニ於テ奉天城攻略ノ圖上演習ヲ考究セリ

(四)朝鮮銀行支店長ニ對シ十八日午後二時頃經理係員ヨリ營業時間外何時ニテモ軍部ノ必要ニ應シ現金引出ニ應シ得ルヤ否ヤ豫メ質ス處アリタル趣ナリ

支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

9.5

0 355

0080

發電昭和六年九月十九日 平

姫路市光源寺前宇多川旅館内

田中外務參與官

矢吹政務次官

奉天付近ニ於ケル日支兩軍衝突事件ニ關シ本日閣議決定左ノ通り
「九月十八日奉天城外北大營付近ニ於テ支那兵力滿鐵線路ヲ破壊シ
タル爲鐵道守備隊ト衝突ヲ生ズルニ至リタル處本件ニ就イテハ政府
ハ事態ヲ擴大セシメサル様極力努ムルノ方針決シ陸軍大臣ヨリ直チ
ニ同一趣旨ヲ關東軍司令官ニ訓令セリ」
尙事件ハ之以上擴大セザルモノト思考ス。

外務省

9.5
26

0 356

008i

電報譯

九月十九日午後八時五〇分發
九月二十日午後二時二五分着

憲兵司令官宛

發信者 關東憲兵隊長

奉天ニ於テハ十九日午前六時半省城及北大營ヲ占領ス死傷十四
駐劄師團主力ハ午前十時奉天ニ到着シ省城東方地區ヨリ兵工廠方面
ニ進出シ、東陵ノ敵ニ對シ午後二時頃ヨリ攻撃ヲ開始ス
司令部ハ正午着奉シ諸部隊ヲ統制シ奉天附近ノ諸物件ノ整理ヲ行ヒ
ツツアリ

本職ハ午後三時半着奉シ警備シツツアリ營口ニ於テハ午前六時半營
口公安局ヲ武装解除セリ、河北派遣部隊ハ午前八時以後武装解除十
時)驛ヲ中心トシテ河北一帶ヲ占領セリ
寬城子支那兵營ハ駐劄守備隊ヲ以テ午前十時半攻略セリ
長春南方、南嶺^{抄記}兵營ハ午前四時頃攻略目下兵營ニ火災ヲ起シアリ
我軍ノ死傷判明セルモノ下士卒九長春分隊隊馬一ハ寬城子ニテ敵彈
ヲ受ケ重傷^{抄記}哈市、長春間ハ今朝來通信不通、又午前八時五十分發東

外務省

9.5

0 357

0082

正

2-63

外務省

軍機
電報譯
九月十九日午前九時三〇分發
九月十九日午後〇時三八分着
發信者 關東軍參謀長
陸軍次官宛
關電四七七
獨立守備隊司令官ノ報告ニ依レハ長春駐屯部隊ハ十九日朝支那軍隊ノ襲撃ヲ受ケ目下交戦中ナルカ如シ

0.5

0 359

0084

正

外務省

支南部線列車ハ「ヨウメン」驛ニテ護路軍ノ爲メ抑留セラル
長春城内支那兵六〇〇ハ我要求ヲ容レ無條件武装解除ヲ承認セリ
吉林ニアリテハ總領事館ニ居留民ヲ收容セリ
吉長線ノ運行ハ異状ナシ
安東ニテハ午後一時迄ニ憲兵、守備隊ト協力シ平穩ニ武装解除シ小銃六〇〇迫撃砲六ヲ押收セリ

0.5

0 358

0083

REEL No. A-0066

0049

アジア歴史資料センター

軍機

電報譯 九月十九日午前九時三〇分發
九月十九日午後〇時四〇分著

陸軍大臣宛

發信者 關東軍司令官

關參三七四

十八日午後十時半北大營西北附近ニ於テ暴戻ナル支那兵ノ鐵道破壞
竝ニ守備隊襲撃ニ端ヲ發シ奉天附近日支兩軍交戦スルニ至ル軍ハ奉
天附近ニ主力ヲ集中シ支那側ヲ脅懾スルニ決シ目下集中中ニシテ本
職ハ午前三時半出發奉天ニ向フ朝鮮軍ニ増援ヲ要求シ第二遣外艦隊
ノ一部ニ營口派遣方ヲ依頼セリ
右報告ス

は(イ)

0085

0 360

外務省

軍機

電報譯

九月十九日午後三時
午後四時三〇分著

陸軍次官宛

發信者 關東軍參謀長

關電四七八

一 軍司令官ハ十九日正午奉天ニ到着セリ
二 奉天附近ノ殘敵ハ目下東大營附近ニ在リテ抵抗中ニシテ逃走セシ
トスル徵アリ軍主力ハ此敵ヲ掃蕩セリ戦利品甚シク損害僅少
三 營口並鳳凰城ノ敵ハ各々我獨立守備隊ノ爲午前八時半頃武装解除
セラレタリ
四 長春駐屯部隊ハ午前十一時頃寬城子ノ敵ヲ掃蕩シ後主力ヲ以テ今
尙抵抗シアル南嶺附近ノ敵ヲ攻撃中我損害相當アリ

は(イ)

0086

0 361

外務省

正

2-66

正

次官宛

電報譯

九月十九日午後四時

午後六時三十分著

關東軍參謀長

關電四七九其一

今般ノ衝突ハ全ク支那側ノ暴戾ニ依ルモノニシテ當時ノ狀況左ノ如シ

十八日午後十時半頃支那將校ノ指揮スル約二中隊ハ北大營西南側ノ滿鐵ヲ破シ續テ柳條溝分遣隊方面ニ攻撃前進セリ虎石台守備中隊ハ此ノ報ニ接シ直ニ之レヲ攻撃スヘク線路上ヲ救援ノ爲メ南下セリ

右ノ情況ヲ見タル敵ハ北大營西南側方面ヨリ兵營ニ逃込ミ之レヲ追テ兵營ニ突入セル我中隊ニ對シ兵營内東側ニアル敵主力カ銃火ヲ浴ヒセタルヲ以テ同中隊ハ兵營内ノ一角ニ占據シテ對抗シ爾後第二大隊ハ守備任務達成ト膺懲ノ爲メ北大營ヲ攻撃スルニ到ル

外務省

電報譯九月十九日 午後四時 午後六時五十分著

次官宛

發信者 關東軍參謀長

關電四七九其二

右ノ如ク事件ノ發端ハ全ク支那側ニアリ尙當日休暇ヲ得テ旅順ヨリ見學ニ來タレル一將校ノ言ニ依レハ正午稍過キ北陵ニ行キシ際ハ沿道何等認ムヘキモノ無カリシモ夕刻歸還ニ際シテハ沿道著シク巡警ノ數ヲ増シ甚シク不安ノ感ニ打タレタリト又開原及公主嶺附近ニ於テハ數日前ヨリ支那人間ニ近ク日本勢力ヲ驅逐スヘシ等ノ風説アリ以上ヲ以テ見ルニ支那側ハ豫メ本件ヲ企圖シアリシカ如ク判斷セラ

外務省

27

0 363

0088

9. 5

27

0 362

0087

2-67
2-68

電報 九月十九日午後六時 發
 陸軍次官宛 發信者 關東軍參謀長
 關電四八〇
 午後四時半^迄ニ於ケル敵情
 午後二時半第二師團ヨリノ報告ニ依レハ東大營附近ニ於ケル敵ノ
 殘兵ハ撫順方面ニ潰走セリト
 昌圖附近ノ敵ハ北上セルトノ情報アルモ確實ナラス
 三正^敵迄ニ於テハ吉林異情ナシ
 三長春南嶺ニ於ケル敵殘兵ノ抵抗ヲ除キ滿鐵及安奉沿線概ネ平穩ニ
 シテ支那人ニシテ我軍ノ通過ニ對シ萬歳ヲ呼フモノ多シ
 四北滿及遼西方面ノ敵ニ關シテハ未タ何等得ル處ナシ

外務省

0 364 0089

2-68

秘 電報 九月十九日午後八時 發
 陸軍次官宛 發信者 關東軍參謀長
 關電四八一
 長春部隊ハ午後二時南嶺兵營ヲ占領シ目下殘兵ヲ掃蕩中
 步兵第四聯隊第一大隊長鹿野少佐本戰鬪ニ於テ大腿部ニ貫通銃創ヲ
 受ク

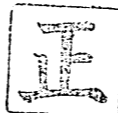
外務省

0 365 0090

REEL No. A-0066

0052

アジア歴史資料センター



2-69

軍機

電報譯 九月十九日午前八時一〇分發
月 日 午前 一時 三五分著

陸軍次官宛 發信者 奉天機關

奉電二一四

奉天附近ニ於ケル其後ノ戰況左ノ如シ

奉天城方面

步兵第二十九聯隊ハ支那軍歩々ノ抵抗ヲ排除シ本十九日拂曉奉天
内城ヲ占領セリ爾後第二師團長ハ逐次到着中ノ該師團ノ諸隊ヲ指
揮シ奉天城東側地區ノ支那軍ヲ掃蕩ス

北大營方面

獨立守備第二大隊ハ敵ノ頑強ナル抵抗ヲ排除シ本十九日拂曉北大
營ヲ占領セリ
爾後獨立守備隊司令官ヲシテ逐次到着中ノ獨立守備諸隊及野砲兵
第二聯隊ノ約半部ヲ以テ附近ノ支那軍ヲ掃拭シ東大營ヲ占領セシム

外務省

は(1)

9.3

0 366

0091

長春方面

步兵第四聯隊ノ一大隊ハ本十九日午前三時寬城子附近ニ在ル支那
軍ト衝突シ目下交戦中ナリ

は(1)

9.3

0 367

0092

外務省

REEL No. A-0066

0092

アジア歴史資料センター

正

2-70

外務省

本二十日午前七時獨立守備二個大隊ヲ以テ昌圖コウテウザン第六五
七團ヲ武裝解除セリ
我ニ損害ナシ、一同志氣極メテ旺盛

は(イ)

0094

0 369

外務省

電報譯
九月十九日午後九時五分發
九月二十日午後一時二分著
憲兵司令官宛
發信者 關東憲兵隊長
當隊ハ開原以南ノ分隊、分遣隊ヨリ兵力ヲ奉天ニ集中シ午後五時編
成ヲ終リ部署ニツク、本職以下百十九名

は(イ)

0093

九月二十日 午前〇時 五分發
午後一時五五分著

憲兵司令官宛

長春憲兵分隊長

長春支那軍隊ハ午後十一時半迄ニ驅逐又ハ武裝解除ヲ了セリ
附屬地及城内ハ平穩ナリ

九月二十日 午前九時三〇分發
午後二時二〇分著

憲兵司令官宛

關東憲兵隊長

昨夜來奉天、安東、營口共ニ平穩

9.3

0 368

正

2-72

軍機

電報譯

九月十九日午前七時

七分發
五五分著

陸軍大臣宛

發信者朝鮮軍司令官

朝參報一

軍ハ奉天方面ノ狀況ニ鑑ミ飛行第六聯隊ヨリ戰鬪、偵察各一中隊ヲ
今早朝平壤出發關東軍ニ増援セシメ又第二十師團ノ混成旅團約一旅
團ハ奉天方面ニ出動ノ準備ニ在リ尙第十九師團ニハ成ルヘク多クノ
兵力ヲ以テ出動シ得ル如ク衛戍地ニ於テ準備ヲ整ヘシム

外務省

9.3

0 371

0096

正

極秘

2-71

(昭和六年)

九月十九日午後四時英國大使ヨリ電話左ノ内報アリタリ
在北平英國公使ヨリノ來電ニ據レハ同公使ハ張副司令カ奉天ヨリ
日支衝突ノ報ニ接シタル際偶副司令ト會食中ニシテ副司令ハ公使
ニ對シ即時發令奉天將士ヲシテ自ラ武装ヲ解キ武器ヲ何レカニ保
管セシメ無抵抗ノ態度ヲ執ラシムヘシト語リタル由ナリ

次官

外務省

9.5

0 370

0095

2-73

軍機

電報譯 九月十九日午後十一時二十七分發

參謀次長宛 發信者朝鮮軍參謀長

朝參報第二八號

間島方面ニ於テハ朝來奉天附近ニテ交戦ノ情况ヲ知ルト共ニ支那軍隊及民心激昂通信機關ノ一部ヲ破壊シ内鮮人ノ行動ヲ壓迫監視シ又ハ國境附近ニ於テ鮮人ノ射撃セラルルモノアル等不安其極ニ達シ何時事件ノ突發アルヤモ計リ難キ情勢ニアリ

は(イ)

0 372

0097

外務省

9.3

2-74

電報譯 九月十九日午後二時五分發

陸軍次官宛 發信者支那駐屯軍參謀長

天九七五

奉天ニ於ケル日支兩軍ノ衝突ニ關連シ未タ關内奉天軍カ關外ニ移動スルノ徵候ヲ認メス又當地方支那言論機關ハ捏造的報道ニ努メツアルモ具體的動搖ヲ來スニ至ラス然レトモ軍ハ準備ヲ完成シ如何ナル事變ニモ應シ得ルノ態勢ニ在リ

は(イ)

0098

0 373

外務省

9.3

ハラフレイス

75

昭和6 一三〇四〇 暗

北平 二十日後發
本省 九月二十一日發着

幣原外務大臣

矢野參事官

第四二二號 (極秘扱)

往電第四二〇號會見ノ際學良ノ談話左ノ通
 日本軍ノ奉天ノ外營口、長春、安東等ヲモ占領セラルルカ右ハ
 如何ナル理由ニ基クテ諒解ニ苦シム又奉天長春駐在ノ日本軍ニハ砲兵
 ナキ點其他ノ事情ニ頓シテ今次事件ハ全然日本側ノ計畫的ノモノニシ
 テ即チ日本側ハ中村事件ヲ涉カ其後順調ニ進捗シ近キ解決ノ運
 此ルニ鑑ミ斯テハ計畫實施ノ機ヲ失フヘキヲ慮レ此舉ニ出テタルモ
 ノト認メテ
 本件原因ニ付日本側ノ説明ハ諒解シ難ク奉天軍隊カ滿鐵ヲ破壊ス
 ル如キカトハ斷シテアリ得ヘカラサルコトニシテ自分ハ他ク迄事件
 ノ真相ヲ明カニスル覺悟ナリ自分ハ豫テヨリ日本軍ニ今次ノ如キ計

外務省

9.3

0 374

0099

正

正



書アルヲ聞知シ才力實現ヲ非常ニ恐レ會テ東北各省幹部來平ノ節モ
 彼等ノ意見モアリ極力日本トノ衝突ヲ避クル様訓令シ置キタルカ他
 方同様見地ヨリ奉天駐在ノ第七旅ヲ他ニ移駐セシムル意向ヲ有シ居
 リタリ尙北大營ノ部隊ハ兵器ハ全部倉庫ニ格納シアルヲ以テ日本軍
 ニ抵抗スルカ如キコトハ全然想像シ得ネ
 申分ハ今次事件ヲ日本軍部ノ所爲ト認メ居ル次第ナルカ若シ日本
 側ニ於テ東北側ニ何等要求アラハ率直ニ申出テラルレハ可ナルニ斯
 ノ如キ端激行動ヲ以テ自分ヲ強要セラレントスルハ諒解ニ苦シム

本事件ノ發生ハ自分等ニ於テ折角努力中ノ日本ト奉天側ノ親善關
 係ニ頓挫ヲ與フルモノナリ從テ自分(學良)ハ日本側ヨリ排日家
 ト思ハレ居ル由ナルカ今次日本軍ノ占領シタル奉天ニ於テ中間側ノ
 各種書類ヲ點檢セラルレハ自分ノ軍ノ態度ヲ判明スルコトト信ス殊
 ニ自分ノ公正ナル態度ハ今次事件ニ於ケル我方措置振リニ依リテモ
 充分諒解セララルコトト思考ス

外務省

9.3

0 375

0100